

南和の医療は南和で守る

南和地域公立病院新体制 基本構想・基本計画の概要

南和地域の医療が生まれ変わります！

医療機能が低下している南和地域の3つの公立病院は、1つの救急病院と2つの地域医療センターに役割を分担して、新しい組み合わせの3つの病院に生まれ変わります。

この目標に向かって、奈良県と五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村の13の地方公共団体が（仮称）南和広域医療組合※の設立を進めています。

※（仮称）南和広域医療組合は、13の地方公共団体の病院に関する事務を所管する特別地方公共団体で、平成24年2月設立予定の一部事務組合です。

CONTENTS

地域医療再生の重点ポイント	1・2
地域医療再生の取り組み7つのポイント	3
全体方針・病院職員のために	4
救急病院の整備	5・6
地域医療センターの整備	7
基本構想・基本計画(全体イメージ)	8
医療機関との連携イメージ	

これからも、私たちが地域医療を守り続ける

県立五條病院、国保吉野病院、町立大淀病院
それぞれの病院が地域医療を守ってきた誇り
地域住民からの厚い信頼に応え続けるために
スタッフ一丸となって地域医療を守り続ける

determination

決意

situation
状況

南和地域の公立3病院（県立五條病院・国保吉野病院・町立大淀病院）では、地域の人口減少によって患者数が減少しています。そして、患者数の減少に伴う医師・看護師の減少によって、さらに患者数が減少するという悪循環が生じています。

このような状況にありながら、これまでそれぞれの病院は役割を明確にできず、同じような機能の病院として運営してきました。この結果、南和地域の入院患者のうち、約60%は地域外の病院で入院しているという状況になっています。

地域内の人口減によって患者数が減少傾向であっても、病気になってから療養やリハビリまで、切れ目のない医療提供体制をつくる必要があります。

さらに、広い山間部の患者に対応するため、公立へき地診療所への医師・看護師の支援機能を確保する必要があります。

revolution

変革

地域医療再生の重点ポイント

ポイント 1 地域の救急を断らない病院をめざして 救急医療を強化

救急病院に医師・看護師を重点的に配置することで、24時間365日、救急車を受け入れできる体制をつくり、搬送受入を断らない救急医療をめざします。



ポイント
2

高齢者のニーズにあった 長期間の入院医療を充実

近年、地域住民の高齢化に伴い、救急病院を退院することになったものの、引き続き入院を必要とする患者の受入先の整備が求められています。地域医療センターでは、患者が安心して療養のために入院できる体制を整備し、地域で急性期から療養期、そして在宅までの切れ目のない医療の提供をめざします。

ポイント
3

災害対策の医療を強化

東日本大震災、また、この地域に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害。災害時に対応できる医療体制をつくることはとても重要となります。

その中でも、災害時に道路が通れなくても患者を病院へ搬送できるヘリコプター、災害現場で初期対応にあたる医師・看護師等による災害派遣医療チームの存在は特に重要となります。

そのため、救急病院では、ヘリポートを設置してヘリコプターによる患者搬送の受け入れを可能にして、より迅速な救急医療・災害医療の対応をめざします。また、平常時から災害派遣医療チームを編成して災害時に備えます。



▲紀伊半島大水害の災害医療支援のためヘリコプターに乗り込む県立五條病院の医師

ポイント
4

在宅医療やへき地医療の強化など 地域に密着した医療サービスを強化



南和地域にとって在宅医療・へき地医療の強化はとても重要なテーマとなります。住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりのため、公立へき地診療所と南和公立3病院との情報ネットワーク化を推進します。

具体的には、医師・看護師の養成・派遣や巡回診療を行うほか、公立へき地診療所と3病院を情報ネットワークで連携することにより、病院の予約、レントゲン結果の相互利用など、さらに充実した医療提供体制をめざします。

また、公立へき地診療所や地域の医療機関と連携して、在宅患者への訪問診療の強化を図り、地域密着型の医療をめざします。

ポイント
5

基本理念は 「南和の医療は南和で守る」

南和地域公立病院新体制では、「南和の医療は南和で守る」を基本理念として掲げています。

この基本理念に基づく方針として、

①行政機関として

「医療提供体制は、地域の市町村が主体的に支えていくこと」

②医療機関として

「地域住民が必要な医療を適切に受けられる体制をつくること」

③地域住民として

「医療提供体制を将来にわたり維持するためには、医療を受ける側の地域住民が理解を深め、協力すること」

の3点を挙げています。

この基本理念と方針に基づき、地域住民の健康な生活を将来にわたり確保するため、新たな病院経営のしくみをつくります。



地域医療再生の取り組み **7** つのポイント

ポイント
1

救急病院（急性期）の整備

基本方針

- 地域の救急を断らない病院
- 消化器疾患、呼吸器疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門医療の充実
- へき地医療への対応
- 災害時に対応する医療
- 在宅への連携を見据えた高齢者医療

ポイント
2

地域医療センター（療養期）の整備

基本方針

- 療養への対応
- 在宅への連携を見据えた高齢者医療
- 身近な外来機能（急性疾患の初期診療や慢性疾患の診療）

ポイント
3

へき地医療の支援

へき地医療拠点病院として、医療スタッフの育成・派遣や、巡回診療の強化等に取り組むと同時に、公立へき地診療所との人的連携・情報連携をより一層強化することにより、南和地域におけるへき地医療を積極的に支援します。

ポイント
4

在宅医療の充実

入院患者がスムーズに退院できるように在宅療養や転院に関する相談などに積極的に対応します。

在宅医療を推進していくため、訪問診療を支援する在宅医療支援センターを設置します。在宅医療支援センターは、地域の医師会との連携を行いながら運営します。また、地域訪問看護ステーションや訪問介護事業所との連携を強化します。

ポイント
5

看護専門学校の設置

県立五條病院でのノウハウを継承・発展させた看護専門学校を設置して、地域医療を支えるため必要な看護師を養成・確保します。

ポイント
6

奈良県立医科大学との連携

救急病院（急性期）では対応できない脳卒中・急性心筋梗塞の超急性期対応、三次救急対応、高度専門医療、分娩対応、医師確保などについて、奈良県立医科大学附属病院（高度医療拠点病院）との連携により、南和医療圏におけるシームレスな医療提供体制を確保します。

また、感染症対策については、院内感染防止対策を強化・充実するとともに、奈良県立医科大学附属病院感染症センターとの連携による体制整備を図ります。

ポイント
7

地域の診療所、地域・周辺病院との連携

地元医師会との協働・連携により、一次救急の体制整備を図ります。また、病診連携により、初期診療（プライマリケア）から急性期診療、慢性期診療まで切れ目のない地域医療体制の充実を図ります。

地域・周辺病院との協働・連携により、二次救急（南和輪番）の体制整備を図ります。また、病病連携により、切れ目のない医療提供体制の充実を図ります。

全体方針

チーム医療の推進

良質な医療を提供するため、医療に従事する多様な医療スタッフが患者の情報を共有し、互いに連携・補完しあって患者の病態に的確に対応して協働するチーム医療を推進します。



地域に開かれた病院をめざす

地域住民との協働を基本として、積極的に地域住民と交流・医療情報提供の機会を持つことを推進します。

- ・地域の医療機関との合同学習会の開催、地域住民へ医療情報の普及促進など、地域の医療水準向上に努めます。
- ・地域住民に対する健康啓発のため、イベントやセミナーの開催、病院情報の発信などの事業を推進します。



▲県立五條病院での健康フェスティバルのようす

病院職員のために

職員が成長を実感でき、働き続けられる病院をめざします。

キャリア・スキルアップ

- ・専門医の認定を受ける環境等を整備します。
- ・専門看護師や認定看護師など、専門性を高めるキャリアアップを支援します。
- ・新人看護師や看護師免許取得後間もない看護師に対する教育・研修支援体制の充実を図ります。
- ・各種専門研修を受けるための支援体制の充実を図ります。
- ・院内図書室を設置し、医学図書・医学雑誌を充実し、インターネット環境を整えて、自主的な研究をサポートします。

臨床研修機能

- ・臨床研修指定病院の基幹型となることをめざすと同時に、専修医（後期研修医）を積極的に受け入れます。
- ・救急、消化器・循環器等の専門診療、へき地診療など、充実した臨床研修プログラムを整備します。
- ・へき地診療を志す研修医、若手医師の救急病院から公立へき地診療所へ人材派遣などを通じ、総合医の育成をめざします。
- ・研修指導医の育成・確保をめざします。
- ・研修医室を充実し、他病院と連携しての合同研修など研修ができる体制を整備します。

ワークライフバランス

- ・ワークライフバランスに配慮した勤務形態の構築をめざします。
- ・一度医療現場を離れた医師・看護師に対し、スムーズな職場復帰が可能となるよう復職支援研修を行います。

業務に専念できる職場環境

- ・患者等とのトラブルなどに対応できる組織体制を整備（医療メディエーターの育成など）し、職員が安心して働くことができる職場環境を整備します。
- ・医療クラークの配置などにより、医療業務に集中できる環境を整備します。

職員アメニティの充実

- ・アメニティが充実した働きやすい勤務環境を整備します。
- ・保育所や職員の住居を確保します。



▲町立大淀病院の院内保育所でのクリスマスイベントのようす

救急病院の整備



▲救急病院建設予定エリア



▲ゾーニングイメージ図



▲イメージパース

今後、設計等により変更する可能性があります。

救急病院（急性期）の病床規模・診療科

- 病床規模 需要面や供給面を勘案し、250床程度(一般病床)
- 診療科
 内科（総合、循環器、呼吸器、消化器）、神経内科、
 外科（消化器、総合）、脳神経外科、整形外科、
 産婦人科（分娩は当分休止）、眼科、小児科、皮膚科、
 泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、
 精神科（外来のみ）、歯科口腔外科（今後検討）
 消化器病センター、糖尿病センター、運動器疾患センター、
 在宅医療支援センター、健診センター

看護専門学校

- 学校規模 定員120名（定員40人×3学年）

救急病院（急性期）の医療機能

● 救急医療

24時間365日、救急搬送を受け入れる体制を構築して、断らない救急をめざします。
救急対応を行う上で、麻酔科医、脳神経外科医等の確保をめざします。
一次救急は医師会との連携にて対応をめざします。

● がん

予防、診断、外科的療法、化学療法を基本とした上で、さらに緩和医療も行うことをめざします。
放射線治療は、奈良県立医科大学附属病院と連携して対応します。

● 脳卒中・急性心筋梗塞

現状の機能を維持するとともに手術や高度処置は奈良県立医科大学附属病院で対応します。
救急隊でできないトリアージやリハビリ、合併症治療等の受け入れの維持・強化をめざします。

● 糖尿病

診療所では対応が困難な患者の受け入れ、合併症対応や生活指導入院等、糖尿病センターとしての機能の維持・強化をめざします。

● 小児医療

3病院の小児科医を集約し、医療機能を充実します。

● 周産期医療

奈良県立医科大学附属病院メディカルバースセンターとの連携を強化し、地域で妊婦健診、メディカルバースセンターで分娩を行います。
ただし、将来医療従事者の確保及び一定の需要が見込める目途が立った際、体制について再検討します。

● へき地医療

へき地医療拠点病院として、へき地診療所の支援を行うとともに、総合医及び看護師の養成・確保・研修対応の一層の強化をめざします。

● 災害医療

地震、洪水その他各種事故等に対応できるよう災害チーム（災害派遣医療チーム（DMAT））を準備するとともにヘリポートなどの機能を有し、災害拠点病院としての機能を果たします。

● 高齢者・在宅医療

在宅医療支援センターを設置し、地域の医師、訪問看護、介護との連携強化をめざします。
高齢者によくみられる疾患である肺炎や骨折等にも十分対応します。

部門別方針

● 病棟部門

南和医療圏における急性期入院医療の拠点病院として、患者にとって安全・安心・快適な療養環境を提供します。
看護体制は7対1をめざします。

● 外来部門

現在3病院で実施している外来診療を維持するとともに、急性期病院としてより専門性の高い外来医療を提供します。
一般外来に加え、専門外来、看護外来を設置し、患者需要に応じた診療・サービスが提供できる体制を構築します。

● 手術部門

術前から術後までを通して、安全で質の高い手術を実施できる体制をめざします。

● 薬剤部門

薬剤管理指導業務や医薬品の調剤、化学療法をはじめとする注射薬調剤などを通じ、安全な薬物療法の支援を行います。

● 放射線検査部門・臨床検査部門・病理部門

迅速かつ安全な検査体制を確立し、質の高い検査業務の提供を行います。また、救急医療等に対応するため24時間対応可能な体制を構築します。

● リハビリテーション部門

急性期医療を担う医療機関として、急性期のリハビリテーションを中心に退院後の在宅復帰に向けた対応を行います。

● 栄養部門

食事を療養における重要な要素と位置づけ、安全・安心で良質な、患者の病態にあわせた食事管理を行います。また、選択メニューの導入などにより、患者の満足度の向上をめざします。

● 臨床工学部門

医療機器の中央管理を行い、安全で効率的な運用を行います。



地域医療センターの整備



地域医療センター
国保吉野病院を改修



地域医療センター
県立五條病院を改修

地域医療センター(療養期)の 病床規模・診療科

- 病床規模
2施設で各90床程度(療養病床)
合計180床程度
- 診療科
身近な外来機能(内科・整形外科、※眼科等は
今後検討)

医療機能

地域二一ズの高い長期入院機能、在宅への連携
を見据えた高齢者医療、地域の身近な外来機能

部門別方針

●病棟部門

南和医療圏における療養期の医療需要に応えるとともに、患者にとって安全・安心・快適な療養環境を提供します。

医師・看護師・薬剤師等の各医療専門職間で積極的な連携を図ると同時に、救急病院と連携し、急性期医療が必要となった患者へのスムーズな医療提供が可能な体制を構築します。

●外来部門

地域住民の需要に応じた外来医療を提供します。
(内科・整形外科を中心に外来診療の提供。眼科等は今後検討)

地域医療センターで対応が困難な患者は、救急病院と緊密に連携し、患者の病態にあった医療を提供します。

●薬剤部門

薬剤管理指導業務や持参薬管理などの薬剤業務の充実を図り、安心・安全な療養環境を整備します。



●放射線検査部門・臨床検査部門

療養期を担う医療機関として、規模と機能に見合った検査体制を構築すると同時に、救急病院と連携します。

医療機能に応じた画像診断機器を配置します。また、必要最低限の検体検査や生理検査に関しては、院内での検査体制構築をめざします。

●リハビリテーション部門

療養期を担う医療機関として、維持期のリハビリテーションや在宅復帰をめざしたリハビリテーションを中心に実施します。また、訪問リハビリテーションの実施もめざします。

●栄養部門

食事を療養における重要な要素と位置づけ、安全・安心で良質な、患者の病態にあわせた食事管理を行います。また、選択メニューの導入などにより、患者の満足度の向上をめざします。

●臨床工学部門

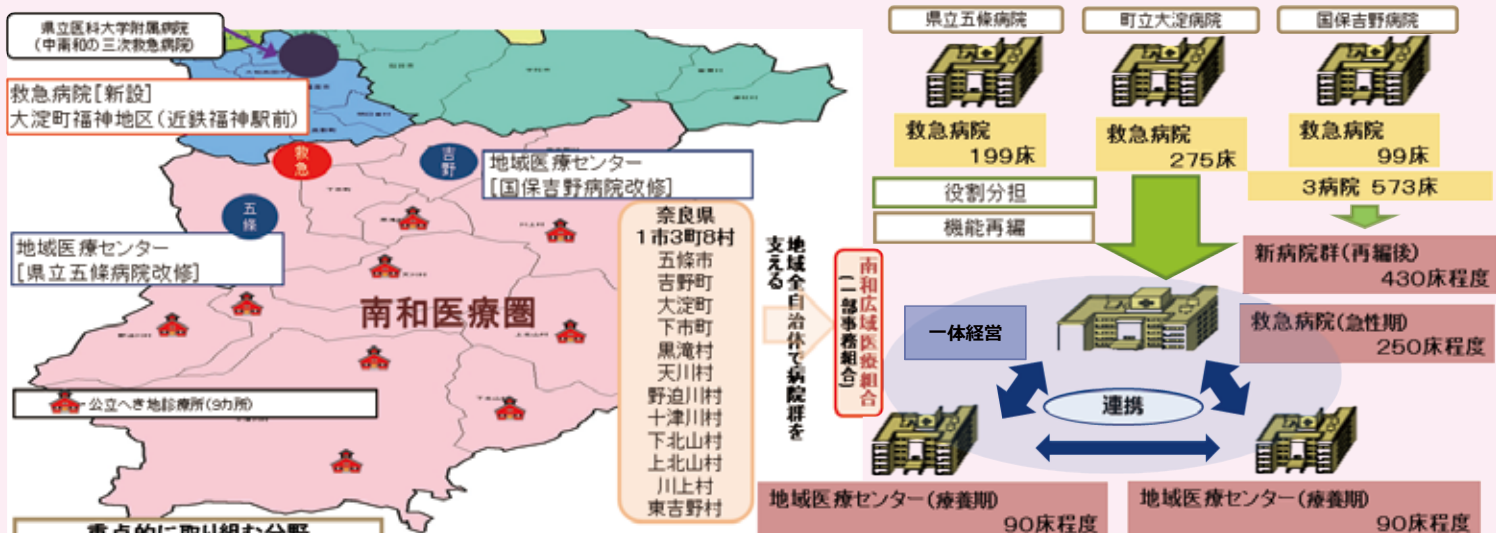
救急病院の臨床工学士が巡回し、医療機器の管理、点検業務などを円滑に行う体制を構築し、安全で効率的な運用を行います。

新南和公立病院体制基本構想・基本計画(全体イメージ)

～基本理念：南和の医療は南和で守る～

南和地域の医療を再生する取り組み

医療機能が低下している3つの救急病院を、1つの救急病院(急性期)と2つの地域医療センター(療養期)に役割分担を行い、医療提供体制を再構築する。



重点的に取り組む分野

- 地域の救急を断らない病院
- 消化器疾患、呼吸器疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門医療
- 療養機能の強化
- へき地医療への対応
- 災害時に対応する医療
- 在宅への連携を見据えた高齢者医療

南和地域の医療を再生する事業

地域医療を限りある医療資源で守っていくために、救急病院と地域医療センターの役割・機能を明確にし、切れ目ない医療体制を構築する。

- 救急病院(急性期)の整備
- 地域医療センター(療養期)の整備
- へき地医療の支援
- 広域経営組織の構築
- 看護専門学校の設置
- 地域の診療所との連携

救急病院(急性期)



救急病院の基本方針

- 地域の救急を断らない病院
- 消化器疾患、呼吸器疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門医療
- へき地医療への対応
- 災害時に対応する医療
- 在宅への連携を見据えた高齢者医療

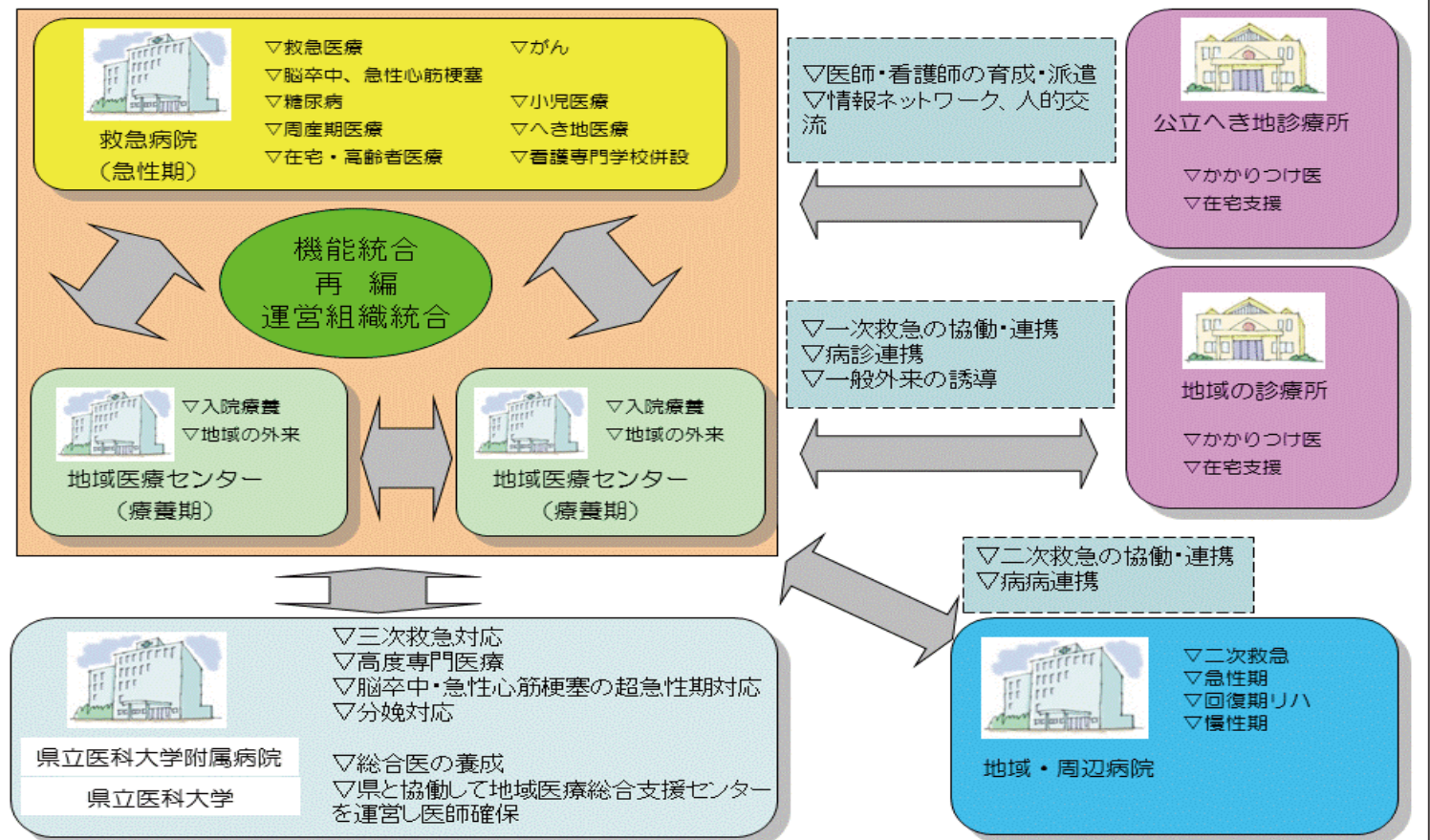
地域医療センター(療養期)



地域医療センターの基本方針

- 療養への対応
- 在宅への連携を見据えた高齢者医療
- 身近な外来機能(内科・整形外科 ※眼科等は今後検討)

地域の診療所、公立へき地診療所、県立医科大学、地域・周辺病院との連携イメージ





南和の医療等に関する協議会事務局

〒637-0041 奈良県五條市本町3丁目1-13 内吉野保健所2階 Tel 0747-22-1283 Fax 0747-22-1284
e-mail jimukyoku@nanwairyou.jp ホームページ <http://nanwairyou.jp/>